

平成30年度 農作物の高温対策について

平成30年7月17日 篠山市・JA丹波ささやま・丹波農業改良普及センター

梅雨明け以降、厳しい暑さが続いています。

今後とも気温が高く、乾燥した状態が続くと予想されますので、以下の点について高温対策を行ってください。

また、農作物の高温対策に加え、農作業中の熱中症に対して十分注意してください。

黒大豆

- ① 開花期～着莢期（8月上旬～9月中旬頃）は、最も水分を必要とし、蒸散量が多いため、畝間かん水を行う。
- ② 畝間かん水の目安は、7日程度降雨がなく、谷が白く乾くまでに行う。
- ③ 畝間かん水は、温度の高い日中を避け、夕方または早朝にできるだけ短時間で行う。また、かん水した水が停滞すると茎疫病の発生や根傷みを助長するため、確実に排水できるようにしておく。
- ④ 排水の悪いほ場では、走り水程度とするなど過湿にならないように注意する。
- ⑤ 高温・乾燥の影響により害虫が多発することで、食害等による結莢不良や被害粒の増加が懸念されるため、「栽培こよみ」にもとづき適切な防除を行う。

山の芋

- ① 7月下旬～9月下旬にかけて芋が肥大する時期となるため、降雨が少ない場合は、夕方または早朝に走り水程度の畝間かん水を行う。
- ② 乾燥により、ハダニ類やヤマノイモコガ等のチョウ目害虫の被害が多く発生する恐れがあるため、「栽培こよみ」にもとづき適切な防除を行う。

野菜（果菜類）

- ① かん水は夕方または早朝に行い、病虫害の適期防除に努める。
- ② こまめな除草や側枝、弱小枝、下葉を除去し、風通しをよくする。
- ③ 不良果の摘果や採り遅れをなくすなど、着果負担の軽減を図るとともに、適宜追肥を行い樹勢維持と成り疲れを軽減する。
- ④ 園芸用施設は、妻面・側面を開放するとともに、寒冷紗等を利用して施設内の温度上昇を抑制する。

その他（農作業中の熱中症予防）

- ① 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、汗で失われた水分を十分に補給する。
- ② 帽子の着用や汗を発散しやすい服装をする。